

【 設問アプローチ 】

[15 - A]

問1 : ① [設問チェック] 「聴衆態度のあり方」が尋ねられているので、その内容を本文から探す。

② [本文読解] 傍線部前の部分で、「かつて」と「現代」の聴衆態度の対比がなされている。

③ [判断基準] 傍線部の『『軽やかな』聴衆』は、「現代」の聴衆態度の内容なので、その内容の説明部分を≪根拠≫として、選択肢を吟味する。

問2 : ① [設問チェック] 『神話』について「どのようにして成立した」のかを尋ねられている。

→ [アプローチ] 本文中で、『神話』の成立過程を具体的に説明している部分を≪根拠≫にする。

② [本文読解] 本文読解中に『神話』をキーワードにする〈意味のまとまり〉を把握し、その中で「具体例」の部分を確認しておく。→ [判断基準] その部分を≪根拠≫とし、選択肢を吟味する。

問3 : ① [設問チェック] 設問文から答えを導くために押さえておくべきポイントを確認する。

(1) 「ところが」… 逆説による文構造。

(2) 「ここに」… 指示内容の把握。

(3) 「パラドックス」… 内容が分からない言葉は、語彙力をもとにしながら、その説明を本文中から明らかにする。

(4) 「なぜ」と尋ねられているので、傍線部について「理由」を説明している部分を探す。

② [アプローチ] ①を踏まえると、この問題を解くために求められていることは、

- ・ パラドックスの「内容」
- ・ パラドックスがある「理由」

③ [設問チェック] 選択肢文は、全て「作品を純粋に鑑賞するとは」を主語にしているので、本文で確認する内容が把握できる。→ 本文中で「作品を純粋に鑑賞する」ことについて論じている部分。

また、選択肢文の述語は「二面性をもつといえるから」で共通している。

→ パラドックスの内容が「二面性」であることが分かるので、その内容説明を本文に求める。

④ [本文読解] 本文の傍線部の前後の文脈が、パラドックスの「内容」と「理由」を説明している。

→ [判断基準] その部分を≪根拠≫として、選択肢文を吟味する。

問4 : ① [設問チェック] 設問文で尋ねられている、「映像メディア」について本文からその内容を探す。

→ 「映像メディア」が、「現代の音楽文化」と「どのように関係しているのか」について。

② [設問チェック] 選択肢文は全て、「映像メディアはAしたが、その一方でBした」という構文。

→ [アプローチ] この構文を踏まえて本文中で論じられた、

「映像メディア」の「A」、「B」それぞれの内容を把握する。

- ③ 〔本文読解〕 傍線部の前後の文脈から「映像メディア」についての具体的な内容は、
傍線部の次の段落以降にあることが分かる。その範囲から、②に当てはまる構文と内容を探す。

問 5 : 〔設問チェック + アプローチ〕 内容合致問題のため、選択肢文のキーワードを先にチェックする。
選択肢文のチェックと本文中の要点や文構造のチェックとを照らし合わせて、正誤判断する。